



## 「青少年奉仕との接点」

青少年奉仕委員会 委員長 宇田 幸生

### 第1 はじめに

今回の卓話にあたり青少年奉仕分野に関して自分なりに学びましたが、昨今の制度の改革等まで補足されておられません。現制度と異なる部分については、諸先輩方よりご指導賜れば幸いに存じます（以下第2は青少年奉仕紹介頁を参照にしています）。

### 第2 青少年奉仕に関して

#### 1 青少年に対するロータリアンの責務

青少年（30歳までの若い人）の多様なニーズを認識しつつ、よりよき未来を確実なものとするために青少年の生活力を高めることによって、青少年に未来への準備をさせること。すべてのクラブと地区は、青少年の基本的ニーズ（健康、人間の価値、教育、自己開発）を支援するプロジェクトに着手するよう奨励されている。

#### 2 新世代のための会議

RCは、地域社会レベルで、青少年が地域の指導者と関心事を話し合い、希望、夢、豊富を表明し、自分と地域社会の問題の解決策を探るための討論の場を提供すべき（ロータリー章典）

#### 3 青少年奉仕常設プログラム（30歳までの青少年が参加）

##### ・インターアクト

12歳～18歳までの国際ロータリー奉仕クラブ。支援や指導を与えるRCが提唱して結成されるが、運営面も経済面も自立。毎年2つの社会奉仕プロジェクトを実施し、地元社会や海外のクラブとの友情のネットワークを築くことができる。120あまりの地域に14000以上のクラブを擁する

##### ・ローターアクト

18歳～30歳までのロータリー提唱奉仕クラブ。地域社会や大学が基盤で地元のRCが提唱。提唱RCの真の奉仕のパートナー。160あまりの国や地域に9000以上

##### ・ライラ（ロータリー青少年指導者育成プログラム）

若者たちのための研修プログラム。対象は年齢12歳～30歳の青少年。

リーダーシップ、よき市民、人間としての成長を強調

##### ・ロータリー青少年交換

最高で1年間、母国以外の国でホストファミリーと生活を共にし学校へ通学。

参加者は、自国やその文化を伝える親善使節として世界を一つにする役割。年間8000人以上の若者が体験

### 第3 職業上の青少年との接点

#### 1 法教育等の場において

法廷膨張や模擬裁判体験、出前授業、お仕事体験

#### 2 具体的な事案において

青少年や子どもの権利の擁護（少年事件、児童虐待等）